

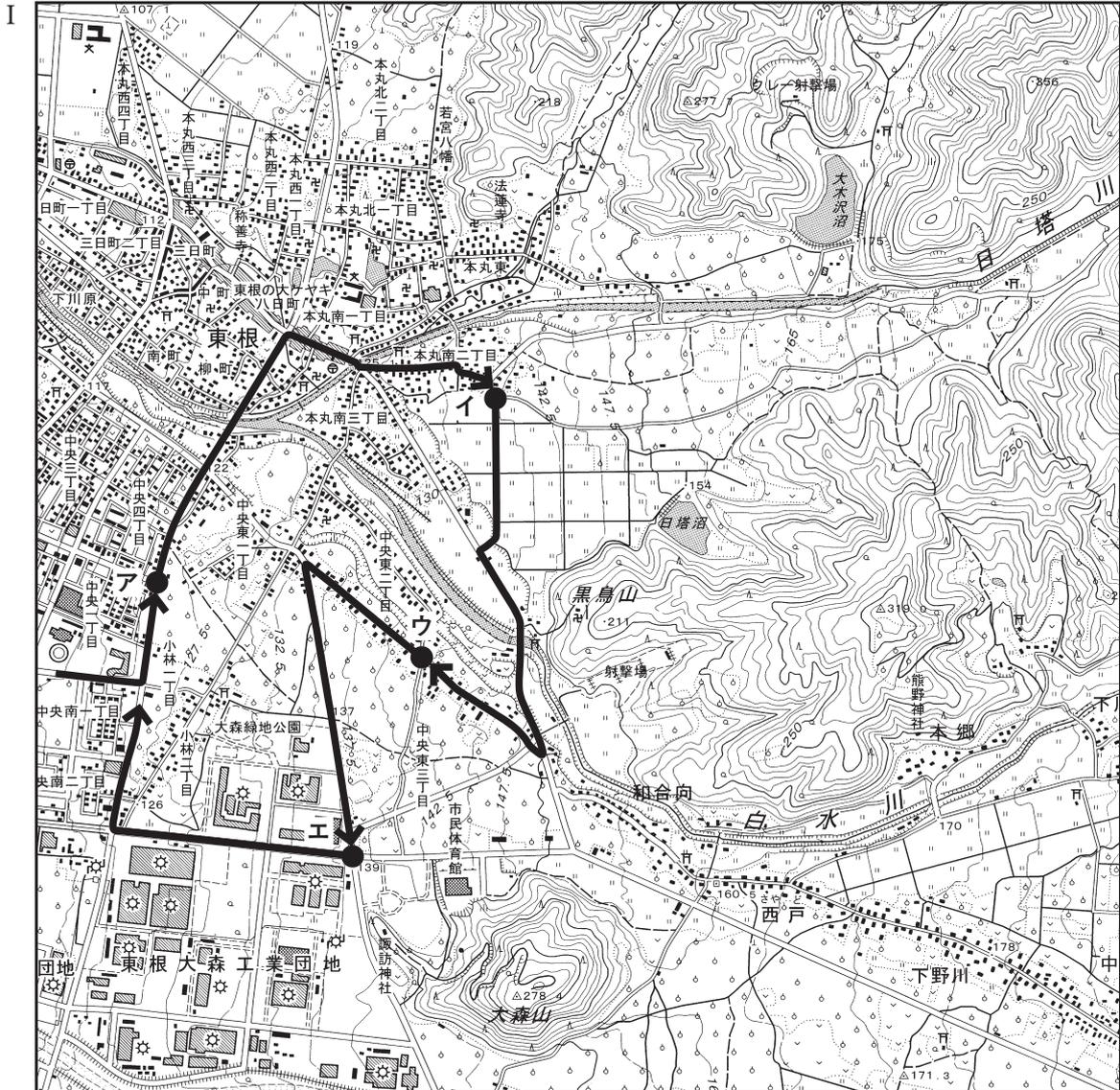
## 社 会

注 意

- 1 問題は **1** から **6** までで、12 ページにわたって印刷してあります。
- 2 検査時間は 50 分で、終わりは午後 2 時 00 分です。
- 3 声を出して読むはいけません。
- 4 答えは全て解答用紙に明確に記入し、**解答用紙だけを提出しなさい。**
- 5 答えは**特別の指示**のあるもののほかは、各問の**ア・イ・ウ・エ**のうちから、最も適切なものをそれぞれ**一つずつ**選んで、その記号を書きなさい。
- 6 答えを直すときは、きれいに消してから、新しい答えを書きなさい。
- 7 **受検番号**を解答用紙の決められた欄に記入しなさい。

1 次の各問に答えよ。

〔問1〕 次のIのルートマップは、扇状地の土地利用を調査することを目的とした野外観察を行うため、2010年の「国土地理院発行2万5千分の1地形図(楯岡)<sup>たておか</sup>」の一部に、調査地点ア～エを●で示すとともに、道順を→で表したものである。IIの文章は、Iのア～エのいずれかの調査地点で分かったことを記録したものである。IIの文章で述べている調査地点に当てはまるのは、Iのア～エのうちではどれか。



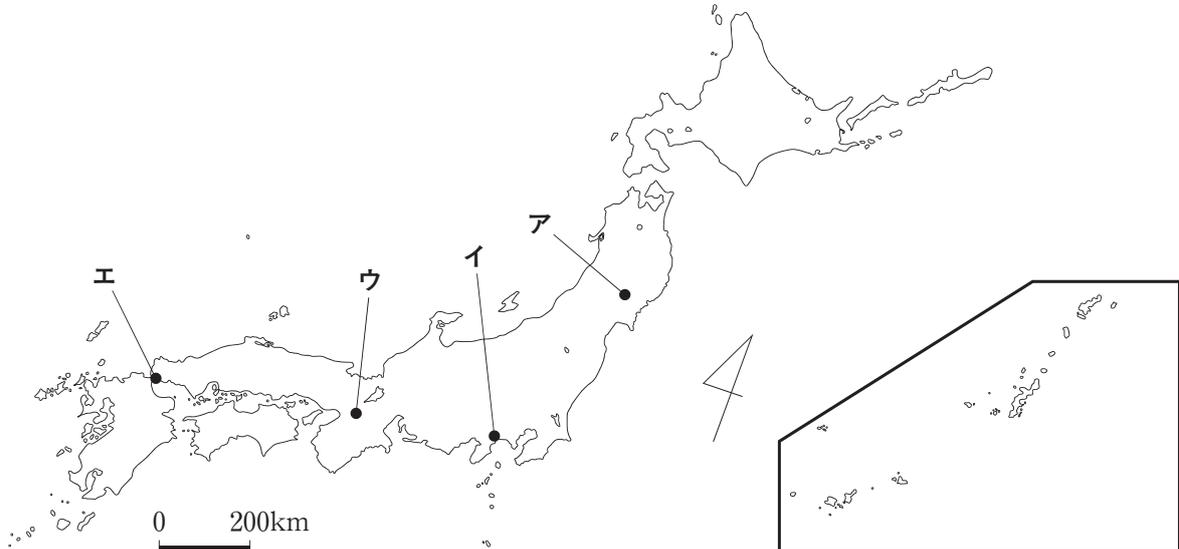
II

〈この調査地点で分かったこと〉

- ・東の方角を見ると、北東にある山と南東にある山の間の斜面に果樹園が広がっていた。
- ・南の方角を見ると、この調査地点から南に延びている道路の両脇に水田が広がっていた。

〔問2〕 次のIの略地図中のア～エは、我が国の歴史の流れを変えた出来事があった位置を示したものである。IIの文章で述べている出来事があった位置に当てはまるのは、略地図中のア～エのうちのどれか。

I



II

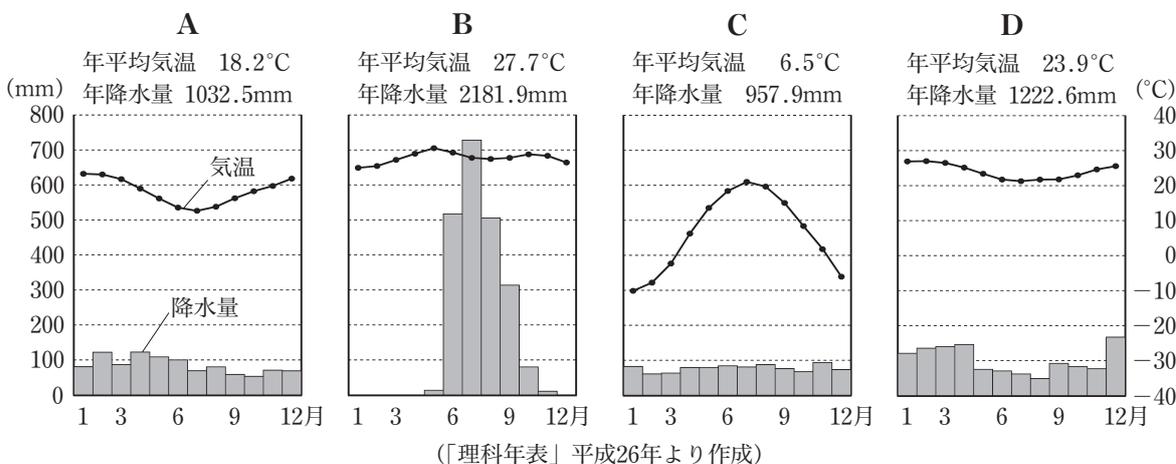
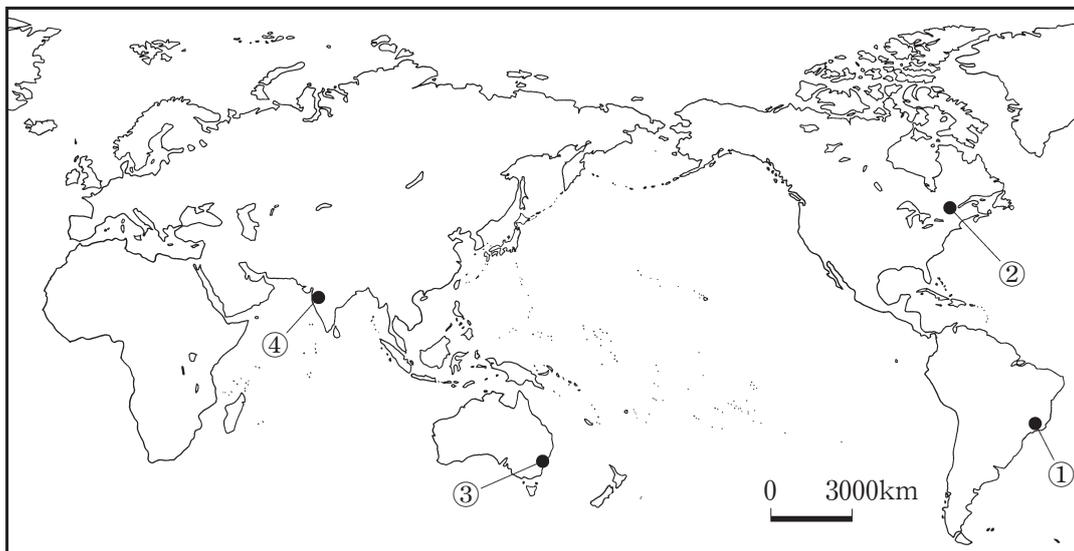
新政府への徳川慶喜とくがわよしのぶの参加が拒否された不満から、旧幕府軍は、この地で新政府側を相手に戦いを起こしたが敗れた。この地での戦いから戊辰戦争ぼしんと呼ばれる内戦が始まり、約1年半に及ぶ戦いの結果、旧幕府軍が降伏し、内戦が終わった。

〔問3〕 次の文章で述べている経済現象を何というか、カタカナ7字で書け。

多くの財やサービスの価格が下がり続ける現象のことであり、我が国においては1990年代後半から10年以上にわたりこの現象が現れた。多くの財やサービスの価格の継続的な下落は、企業の収益を悪化させ、家計における所得の減少や消費の低迷をもたらすことになる。そこで、日本銀行はこの現象からの脱却を図るため、金利の引き下げや金融市場における通貨供給量の拡大を意図した量的緩和などの金融政策を実行した。

2 次の各問に答えよ。

〔問1〕 次の略地図中の①～④は、2011年の日本における鉄鉱石の輸入量が多い上位6か国のうち4か国の主要都市である、リオデジャネイロ、モンリオール、シドニー、ムンバイの位置をそれぞれ示したものである。下のA～Dのグラフは、①～④のいずれかの都市の年平均気温と年降水量及び各月の平均気温と降水量を示したものである。①～④の都市とA～Dのグラフを正しく組み合わせたものは、下のア～エのうちのどれか。



- ア ①-B, ②-D, ③-C, ④-A  
 イ ①-D, ②-C, ③-B, ④-A  
 ウ ①-B, ②-A, ③-C, ④-D  
 エ ①-D, ②-C, ③-A, ④-B

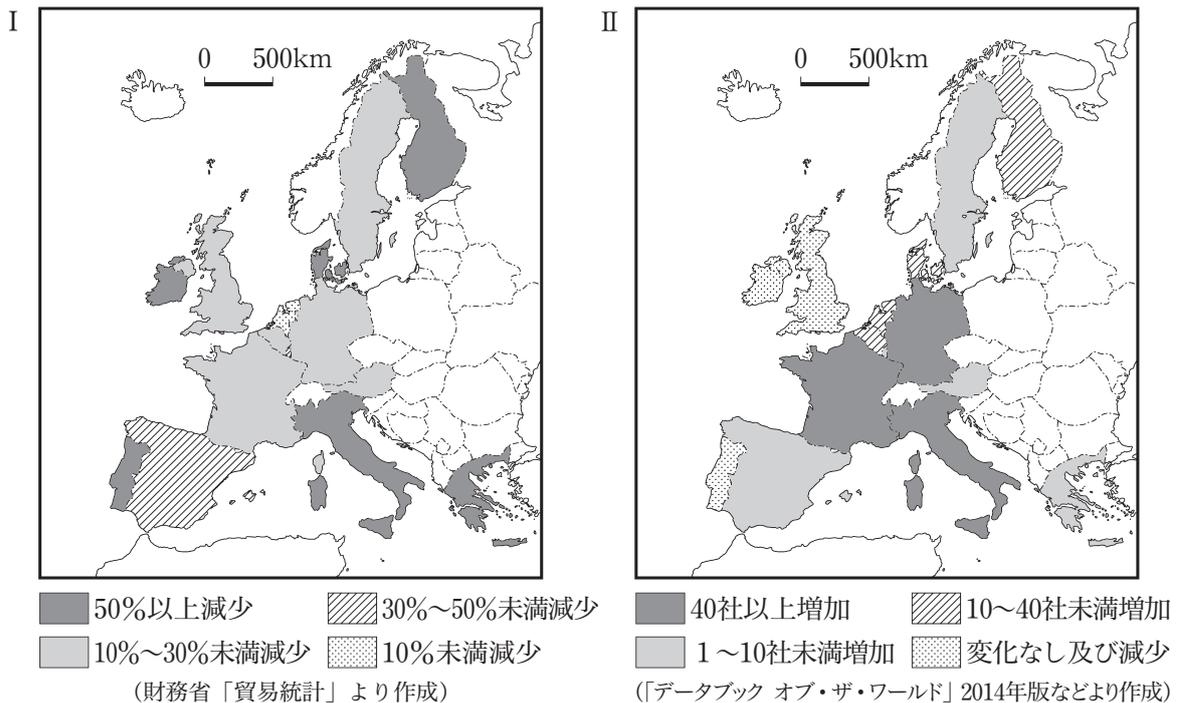
〔問2〕 次のページの表のア～エは、2012年における日本の鉄鋼輸出額の上位4か国である大韓民国、中華人民共和国、タイ、アメリカ合衆国のいずれかの国の、1985年と2010年における化学繊維生産量、自動車生産台数、鉄鋼生産量、日本の輸入額の上位3位の品目を示したものである。大韓民国に当てはまるのは、次のページの表のア～エのうちのどれか。

		化学繊維 生産量 (千t)	自動車 生産台数 (千台)	鉄鋼 生産量 (千t)	日本の輸入額の上位3位の品目 (左から1位, 2位, 3位)
ア	1985年	825	378	13539	衣類, 魚介類, 石油製品
	2010年	1567	4272	58914	機械類, 石油製品, 鉄鋼
イ	1985年	3117	11649	80067	機械類, とうもろこし, 航空機
	2010年	1873	7761	80495	機械類, 科学光学機器, とうもろこし
ウ	1985年	111	82	447	天然ゴム, 魚介類, すず地金
	2010年	1029	1645	4145	機械類, 魚介類, 天然ゴム
エ	1985年	955	443	46794	原油, 石油製品, 衣類
	2010年	30012	18265	638743	機械類, 衣類, 金属製品

(注) 科学光学機器とは、デジタルカメラ、コピー機、スキャナーなどの機器の総称である。

(「日本国勢図会」2012/13年版などより作成)

〔問3〕 次のⅠの略地図は、主なEU加盟国15か国の2001年と2012年を比較した日本からの輸出額の変化を示したものである。Ⅱの略地図は、主なEU加盟国15か国の2001年と2012年を比較した日系現地法人数の変化を示したものである。Ⅲの文章で述べている国に当てはまるのは、下のア～エのうちのどれか。

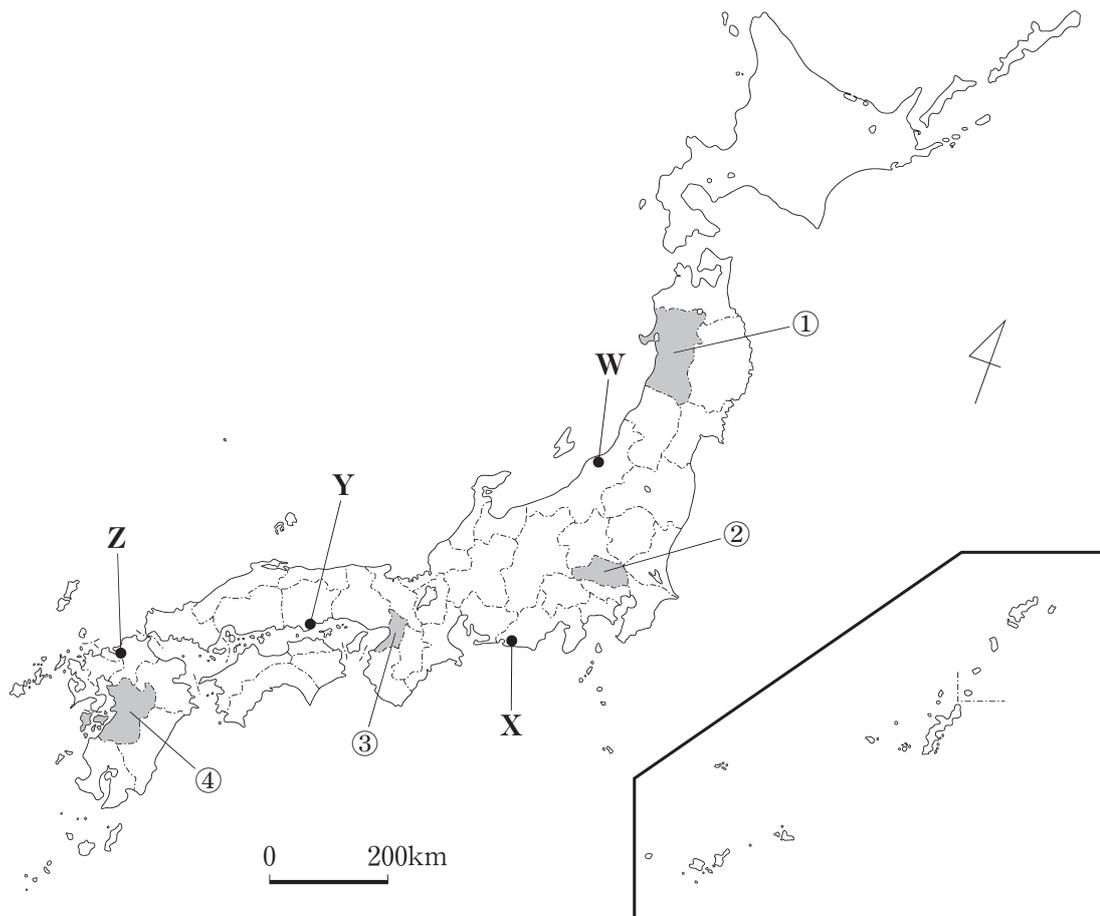


Ⅲ この国は、ヨーロッパ最大の工業国であり、EUの経済、通貨、政治的統合を推進する中心的存在となっている。古くからの加工貿易国として一般機械、自動車を主に輸出しており、医薬品の輸出でも有名である。

2001年と2012年を比べると、日本からヨーロッパ各国への輸出額が全体的に減少傾向の中、日本からこの国への輸出額は30%未満の減少にとどまるとともに、この国での日系現地法人数の増加は40社以上であり、日本との結び付きは依然として強い。

ア フランス    イ ドイツ    ウ イタリア    エ イギリス

3 次の略地図を見て、あとの各問に答えよ。



〔問1〕 次の表のA～Dの文章は、略地図中に  で示した、①～④のいずれかの府県の自然環境と人口分布などの様子をまとめたものである。①～④の府県と次の表のA～Dを正しく組み合わせたものは、次のページのア～エのうちのどれか。

自然環境と人口分布などの様子	
<b>A</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東部から南部には標高1000mを超える山地が連なっている。北東部の世界最大級のカルデラをもつ火山は、国立公園となっている。</li> <li>○行政や経済の中心である政令指定都市に全人口の約40%が集中しており、山間部や農村部には、人口が減少し、高齢化も進行している地域がある。</li> </ul>
<b>B</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東部及び南部には標高1000mに満たないなだらかな山地や山脈が見られる。面積の大部分を占める地形は、西流する河川により形成された平野となっている。</li> <li>○都心部は人口密度が非常に高く、かつては郊外のニュータウンなどへの人口移動があったが、近年、都市の再開発による都心回帰現象も見られ、人口が増加している地域がある。</li> </ul>
<b>C</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東部には南北方向に標高1000mを超える山脈が、北部にはブナの原生林が分布する山地があり、中央部には南北方向に山地が見られる。西部の半島は国定公園となっている。</li> <li>○県外への転出者が県内への転入者よりも多くなっており、人口が減少する中で、全人口に占める65歳以上の人口の割合が40%を超えている地域がある。</li> </ul>
<b>D</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○東部には我が国で最大の面積をもつ平野の一部が、中央部には台地がある。西部の標高2000mを超える山地は、国立公園となっている。</li> <li>○南部には、大都市圏の中心都市へ鉄道等を利用して通勤・通学する人々も多く居住しており、昼間の人口より夜間の人口の方が多くなっている地域がある。</li> </ul>

- ア ①－C, ②－B, ③－D, ④－A  
 イ ①－A, ②－D, ③－B, ④－C  
 ウ ①－C, ②－D, ③－B, ④－A  
 エ ①－A, ②－B, ③－D, ④－C

〔問2〕 次のIの表の**ア～エ**は、略地図中に**W～Z**で示した新潟市、浜松市、岡山市、福岡市の、2010年における人口、製造業事業所数、製造業事業所数のうち食料品製造業事業所数及び輸送用機械器具製造業事業所数、耕地面積、耕地面積のうち田耕地面積及び畑耕地面積を示したものである。IIの文章は、**W～Z**の**いずれか**の都市についてまとめたものである。IIの文章で述べている都市に当てはまるのは、Iの表の**ア～エ**のうちのどれか。

I	人口 (千人)	製造業 事業所数	食料品製造業 事業所数	輸送用機械器具 製造業事業所数	耕地面積 (ha)		
					田耕地面積 (ha)	畑耕地面積 (ha)	
ア	1464	892	265	16	2080	1710	370
イ	710	855	107	44	13900	12300	1600
ウ	801	2323	160	462	12900	2640	10200
エ	812	1142	250	60	33600	28900	4700

(注) 統計上の処理のため、田耕地面積と畑耕地面積の合計は耕地面積と一致しないことがある。  
 (2010年工業統計表などより作成)

- II
- 我が国で最も長い河川の下流部に位置し、米の単作地帯として発達してきた。2010年には耕地面積の8割以上で稲作が行われているが、大根やキャベツなど野菜の生産も見られる。
  - 物流の中心地であり、2010年にはこの都市や周辺地域で生産された農産物などを加工する食料品製造業事業所数は200を超えており、煎餅などの米菓も生産されている。

〔問3〕 次のIの表は、ある町の1965年から2010年までの総人口、0～14歳の人口、15～64歳の人口、65歳以上の人口を示したものである。IIの文章は、2009年4月からこの町で施行された事業の一部を示したものである。IとIIの資料から読み取れる、この町がIIの事業を施行した理由と目的について、簡単に述べよ。

(人)

I	1965年	1980年	1995年	2010年
総人口	15479	11972	9536	7304
0～14歳	6393	3077	1595	643
15～64歳	8164	7543	5729	3837
65歳以上	922	1352	2212	2824

(2010年国勢調査などより作成)

- II
- 奨励金の支給年度において、定住世帯構成員の一人以上が満45歳未満であれば、定住世帯に奨励金を支給する。奨励金の基本額は、定住世帯一世帯につき15万円とし、単身世帯の場合は5万円とする。
  - 中学生以下の子供がいる場合、基本額に、当該中学生以下の子供一人につき5万円を加算した額の奨励金を支給する。
  - 満65歳未満の人が、定住する目的で、町内の土地を取得し、町が定めた期限までに住宅を建築することを確約すれば、一世帯につき奨励金を30万円支給する。

4 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

食は、人々が生命を維持し、活動し、成長するために欠かせないものである。人々は、自分たちの住む地域の気候風土を生かし、知恵と工夫により、食生活を豊かなものにしてきた。

我が国の人々は、四季折々に採集できる植物、狩猟で捕えた動物や魚介類を食材としていた。その後、植物の栽培、土器を使った煮炊きや保存などの食に関する技術を向上させるとともに、外国から伝えられた様々な食文化を生活に取り入れることで、食生活を多様化させてきた。

(1) 一方で、農業技術の向上や肥料の使用などにより、農業の生産力が高まる中、各地に様々な食に関する特産物が生まれるとともに、やがて、その中から、販売し現金収入を得ることを目的に作られる特産物も出てきた。特に江戸時代には、交通路がより一層整備され、食に関する特産物が広範囲に流通するようになり、地域の食文化に大きな影響を与えた。

明治時代以降は、諸外国との関係が一層強まり、国際関係の変化が我が国の食生活にも大きな影響を与える中で、政府は国民の食生活に大きく関わるようになった。

[問1] 外国から伝えられた様々な食文化を生活に取り入れることで、食生活を多様化させてきた。(1) とあるが、次のA～Dは、弥生時代から安土・桃山時代にかけての食生活について述べたものである。時期の古いものから順に記号を並べてあるのは、下のA～Eのうちのどれか。

A 唐から帰国した留学生らによって牛乳の利用法が伝えられ、「酪」や「蘇」といった乳製品が調として朝廷に納められるようになり、貴族の食生活を豊かにした。

B ポルトガルやスペインの人々によってカステラなどヨーロッパの菓子がもたらされ、キリスト教の布教とともに人々の間に広がった。

C 宋から帰国した菜西によって茶を飲む習慣がもたらされ、喫茶の習慣が臨済宗などの寺院から広まり始めた。

D 大陸から移り住んだ人々によって稲作が伝えられ、生産性が高く、保存に適した米を中心とした食生活が始まった。

ア D→A→C→B    イ D→C→A→B    ウ D→A→B→C    エ D→B→A→C

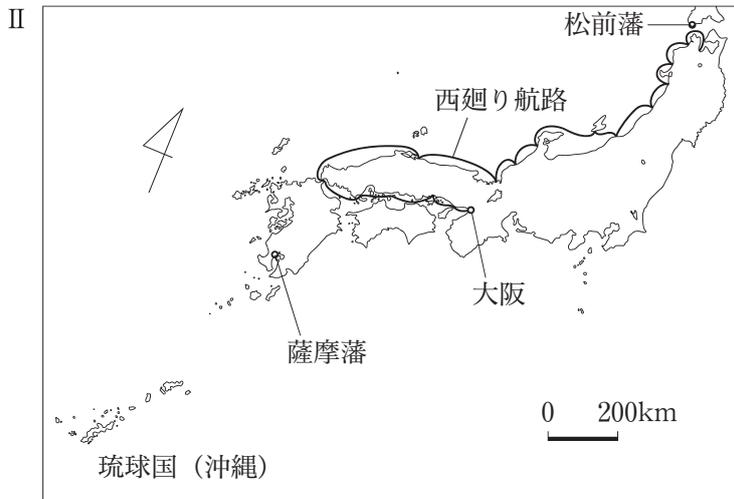
[問2] 各地に様々な食に関する特産物が生まれるとともに、やがて、その中から、販売し現金収入を得ることを目的に作られる特産物も出てきた。(2) とあるが、次のIの略年表は、室町時代から江戸時代にかけての、我が国の食に関する特産物についての主な出来事をまとめたものである。IIの文は、食に関する特産物について述べたものである。IIの文で述べている経済活動が行われた時期に当てはまるのは、略年表中のA～Eの時期のうちではどれか。

西暦	食に関する特産物についての主な出来事
1351	●法隆寺の食事にそうめんやうどんが出される。……………
1477	●江戸の市場で安房国(千葉県)の米、常陸国(茨城県)の茶が販売される。……………
1580	●紀伊国(和歌山県)の僧が、織田信長にみかんを贈る。……………
1735	●青木昆陽が、さつまいもの栽培普及を積極的に勧める「甘藷記」を著す。……………
1859	●長崎の実業家が、イギリスへ日本茶を輸出する。……………

II 酒は、主に京都や大阪を中心とする上方で生産されたが、参勤交代の制度が定められた時期には、江戸に出店し、幕府に酒を納入する商人もいた。

〔問3〕 交通路がより一層整備され、食に関する特産物が広範囲に流通するようになり、地域の食文化に大きな影響を与えた。とあるが、次のⅠの文章は、沖縄の伝統料理とその食材についてまとめたものである。Ⅱの略地図は、江戸時代の日本の海上交通路の一部を示したものである。Ⅲの略年表は、江戸時代の日本の海上交通路、薩摩藩、松前藩に関する主な出来事についてまとめたものである。沖縄でとれない食材を使った料理が沖縄で作ることができた理由を、Ⅰ～Ⅲの資料を活用し、特産物の流通に着目して、簡単に述べよ。

- Ⅰ
- 沖縄の伝統料理の一つにクープイリチーがある。
  - クープイリチーは、水で戻した刻み昆布、豚肉、こんにゃく、油揚げ、かまぼこなどを混ぜて炒め煮にしたものである。
  - クープイリチーの食材の一つである昆布は、主に北海道でとれ、沖縄ではとれない。



Ⅲ

西暦	江戸時代の日本の海上交通路、薩摩藩、松前藩に関する主な出来事
1604	●松前藩がアイヌ交易の独占権を認められ、鮭や昆布、毛皮などを本州の商人に販売した。
1609	●薩摩藩が琉球国(沖縄)を支配した。
1672	●幕府の命令を受けた河村瑞賢が西廻り航路を開いた。
1713	●薩摩藩が黒砂糖を大阪へ初めて積み出した。
1788	●薩摩藩が琉球国(沖縄)の黒砂糖を大阪で販売し、大阪で購入した昆布を琉球国(沖縄)で販売した。
1830	●薩摩藩が黒砂糖の販売権を独占した。

(「鹿児島県史」などより作成)

〔問4〕 国際関係の変化が我が国の食生活にも大きな影響を与える中で、政府は国民の食生活に大きく関わるようになった。とあるが、次のA～Dは、明治時代から現代にかけての食生活に関連した出来事、政府と国民の食生活との関わりについて述べたものである。時期の古いものから順に記号を並べてあるのは、下のア～エのうちのどれか。

- A 国際社会に復帰する中で、高度経済成長による所得水準の向上によって、食の洋風化が進み、米が生産過剰となったため、政府は、米の減反政策を行った。
- B 日米間の貿易摩擦が拡大する中で、我が国の農産物輸入自由化が求められ、政府は、牛肉やオレンジ、小麦などを自由化した。
- C 世界恐慌による深刻な不況と、豊作に伴う農産物価格の暴落及び都市の失業者の流入により、政府は、生活が苦しくなった家庭の児童を救済するため学校給食を奨励した。
- D 欧米の文化が取り入れられ、都市を中心に伝統的な生活様式が変化し始める文明開化の中で、政府は、牛肉を取り扱う業者に営業許可証を与えた。

ア C→D→B→A    イ B→A→C→D    ウ D→C→B→A    エ D→C→A→B

5 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

〔地方自治は、民主主義の学校である〕と言われるように、地方自治は、一国の民主政治を支える基盤であり、地方公共団体の政治に住民が自ら積極的に関わり、地域の課題と向き合い、その課題を解決しようとする場でもある。我が国においては、国政では間接民主制を採用しているが、地方の政治では、民意をより反映しやすくするため、直接民主制の要素を取り入れた制度を設けている。

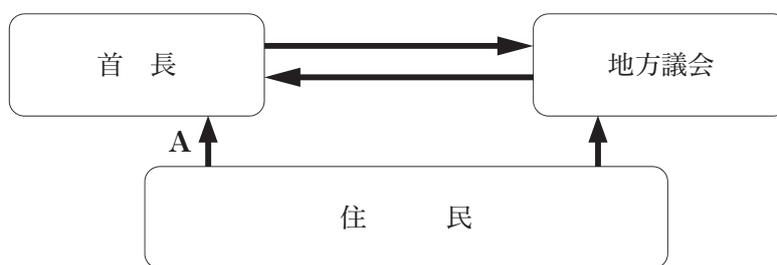
地方自治を実現する上で、地方公共団体には、国から独立した一定の権限と財源が必要である。我が国では、中央省庁主導の集権的な政策運営が行われてきたが、近年では、「小さな政府」を目指す国の行財政改革が行われている。行政面では、国から地方に権限を移す地方分権の動きが進展している。財政面では、国から地方への税源移譲が実施されてはいるものの、公共財や公的サービスの原資となる財源の確保が課題となっている。

今後、地方公共団体には、地域の特色を生かした独自の政策や創意工夫を生かした地域振興の取り組みを実現することが、一層期待されている。

〔問1〕〔地方自治は、民主主義の学校である〕とあるが、「民主主義の学校」としての地方自治のはたらきについて述べているのは、次のア～エのうちではどれか。

- ア 地方公共団体の行政を担う執行機関が、住民のため、国から委任された事務の運営を行う。
- イ 政府から任命された首長が中心となり、国の方針に基づき、地方公共団体の政治を行う。
- ウ 住民自身が身近な地域の問題について考え、住民の意思で地方公共団体の運営を行う。
- エ 地方議会の議員がそれぞれ一つの常任委員会に所属し、地方公共団体の事務の調査を行う。

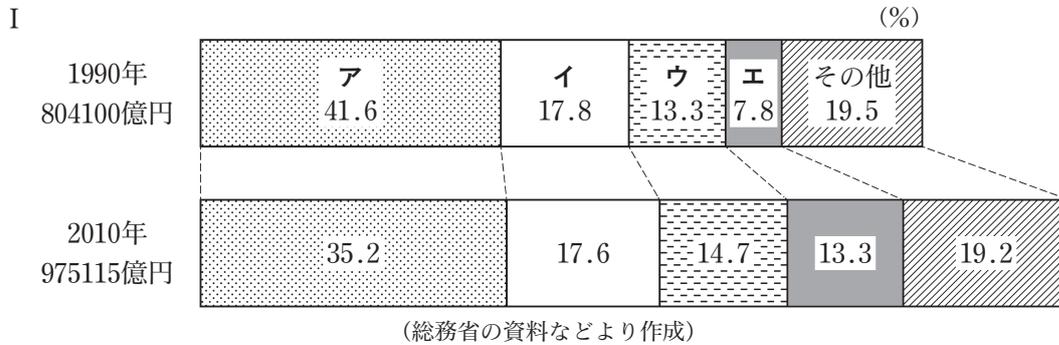
〔問2〕地方の政治では、民意をより反映しやすくするため、直接民主制の要素を取り入れた制度を設けている。とあるが、次の図は、地方の政治における、首長、地方議会、住民の関係を簡単に示したものである。図中のAに当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。



(注) 〔甲〕→〔乙〕は、甲が乙に対して権利や権限を行使できることを示している。

- ア 具体的な予算案や条例案を作成して提出することができる。
- イ 住民投票により過半数の同意が得られれば解職することができる。
- ウ 不信任決議権を行使することによって辞職を求めることができる。
- エ 有権者の3分の1以上の署名があれば解散を求めることができる。

〔問3〕 公共財や公的サービスの原資となる財源の確保が課題となっている。とあるが、次のIのグラフは、1990年と2010年における我が国の地方財政歳入総額及び歳入項目別の割合を示したものである。Iのグラフ中のア～エは、地方税、地方交付税交付金、国庫支出金、地方債のいずれかに当てはまる。IIの文章は、1990年と2010年の歳入項目別の変化の様子について述べたものである。地方債に当てはまるのは、Iのグラフ中のア～エのうちのどれか。



II

○自主財源である地方税は、金額に大きな変動はないが、全体に占める割合は減少している。

○歳入総額の増加分は、ほとんどが依存財源で賄われており、依存財源を割合の変化が大きい項目から並べると、地方債、国庫支出金、地方交付税交付金の順になっている。

〔問4〕 地方公共団体には、地域の特色を生かした独自の政策や創意工夫を生かした地域振興の取り組みを実現することが、一層期待されている。とあるが、次のIの文章は、現在の我が国における地域経済産業政策の一部をまとめたものである。IIの表は、我が国のある地方公共団体における地域振興の具体的事例についてまとめたものである。IとIIの資料を活用し、新たな企業立地により期待できる効果について、産業と雇用の両面に着目して、簡単に述べよ。

I

○地域の特性・強みを生かした企業立地の促進等を通じ、地域産業の活性化を目指す。

○各省庁が連携し、地域による主体的かつ計画的な企業立地促進等の取り組みを支援し、地域経済の自律的発展の土台となる産業基盤の強化を図る。

(経済産業省の資料より作成)

II

	地域の特性・強み	企業誘致の具体例
A市	山麓に広がる豊かな自然が安全な食材のイメージと重なること	自然指向型企業の誘致により、地域の人々の働く場が増えるとともに、農産物のブランド化を実現
B市	研究学園都市として、企業と研究機関等との関係が近いこと	企業の研究開発部門を誘致するなどして、最先端技術の成果を迅速に製品化する体制を構築

(経済産業省の資料などより作成)

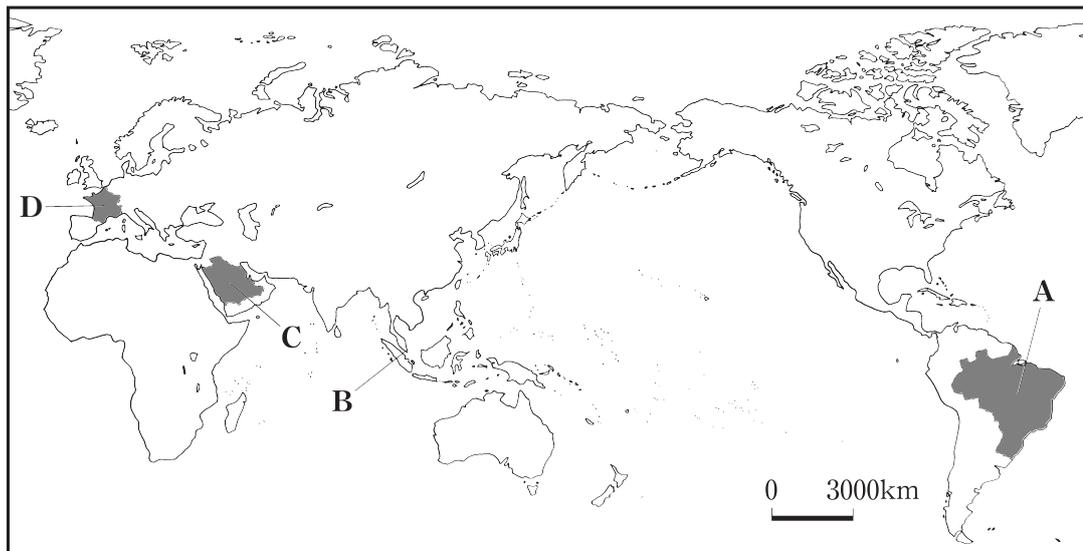
6 次の文章を読み、あとの各問に答えよ。

現代は、交通・情報通信技術の発達や、各国間での経済取り引きの自由化の進展などにより、人、商品、お金、情報などが国境を越えて容易に移動できる、グローバル化の時代を迎えている。<sup>(1)</sup>

グローバル化の進展に伴い、貿易をはじめとする経済活動が促進されたり、<sup>(2)</sup>人、文化、情報の交流が活発になったりすることで、私たちの生活は便利で豊かなものになった。一方で、世界同時不況、国家間の経済格差の拡大、地球環境問題、感染症の世界的大流行など、各国が協力して世界全体で取り組むべき課題も増えてきた。

このため、国際機関を中心とした、危機管理のための世界共通のルールづくりや、資金援助、技術提供など国境を越えた国際協力がますます重要になっている。<sup>(3)</sup>

〔問1〕 人、商品、お金、情報などが国境を越えて容易に移動できる、グローバル化の時代を迎えている。<sup>(1)</sup>とあるが、下のIの表のア～エは、略地図中のA～Dのいずれかの国の2000年と2010年における外国人訪問者数、海上コンテナ取り扱い量、貿易収支額、インターネット普及率を示したものである。IIの文章は、略地図中のBの国について述べたものである。略地図にBで示した国に当てはまるのは、Iの表のア～エのうちのどれか。

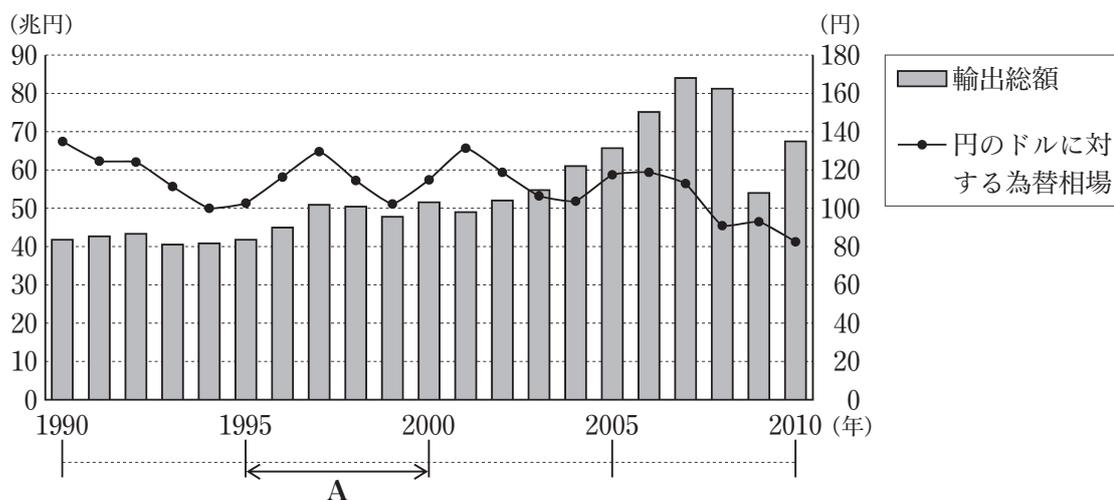


	外国人訪問者数 (千人)		海上コンテナ取 扱い量 (千TEU)		貿易収支額 (百万ドル)		インターネット 普及率 (%)	
	2000年	2010年	2000年	2010年	2000年	2010年	2000年	2010年
ア	6258	9161	17100	29179	12298	46758	36.0	71.0
イ	75595	76800	2923	5347	-3620	-71210	14.3	77.3
ウ	6585	10850	1503	5313	49843	153717	2.2	41.0
エ	5313	5161	2413	8139	-698	20147	2.9	40.7

(注) TEUとは船舶輸送量の単位のこと。国際規格のコンテナ1個分を1 TEUと表す。  
 (「世界国勢図会」2012/13年版などより作成)

II 1965年に独立し、中継貿易の拠点として発展してきた。近年では、周辺地域の物流拠点として中心的な役割を果たすとともに、金融や情報通信、先端技術産業にも力を入れている。

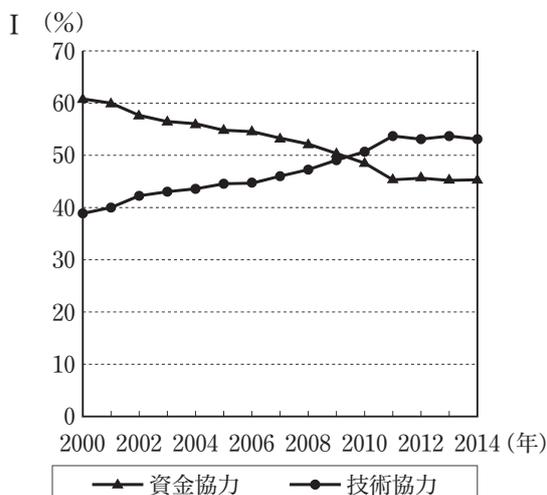
〔問2〕 貿易をはじめとする経済活動が促進されたり、とあるが、次のグラフは、1990年から2010年までの、我が国における輸出総額と円のドルに対する為替相場の推移を示したものである。グラフのAの時期に当てはまるのは、下のア～エのうちではどれか。



(財務省「貿易統計」などより作成)

- ア 株価や不動産価格の大幅な下落により国内景気が低迷するとともに、冷戦終結による世界経済の混乱が生じる中で、円高が進行したものの、輸出は一定の規模を保ち続けた。
- イ 世界貿易機関 (WTO) の設立後、貿易自由化の流れが一層促進される中で、円安が進むと輸出が増加し、円高が進行すると輸出が減少するという傾向が明確に現れた。
- ウ 世界経済全体に景気の拡大傾向が見られる中で、アメリカ発の金融危機が発生し、国際貿易が停滞するとともに、円高が進行し、輸出も一時的に落ち込みを見せた。
- エ アジア地域の急速な経済発展を背景に、国内経済に明るい兆し<sup>きざし</sup>が現れ始める中で、為替の変動にかかわらず輸出が継続的に増加するという状況が見られるようになった。

〔問3〕 資金援助、技術提供など国境を越えた国際協力がますます重要になっている。とあるが、Iのグラフは、2000年から2014年までの、我が国における二国間の政府開発援助 (ODA) 予算に占める援助形態別割合の推移を示したものである。IIの表は、資金協力と技術協力の特徴についてまとめたものである。IとIIの資料を活用し、近年の我が国における国際協力の変化について、資金協力と技術協力の違いを踏まえて、簡単に述べよ。



(外務省の資料より作成)

資金協力	技術協力
<ul style="list-style-type: none"> <li>○返済義務の有無により、有償と無償の違いがあるが、被援助国に対して資金を直接提供する。</li> <li>○被援助国のインフラ整備のための長期にわたる資金や開発に必要な機材等を購入する資金を提供する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○技術者や青年海外協力隊員の派遣、必要な機材の提供等により、人材育成や技術普及などを支援する。</li> <li>○開発に必要な経験や知識、ノウハウを提供することで、被援助国の自律的な発展を支援する。</li> </ul>

(外務省の資料より作成)